

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152

メール info@takaoka-hongwanji.jp

◇第十回中部北陸仏教婦人会大会開催

去る五月二十五日（金）黒部国際文化センターコーラレに於いて「第十回中部北陸仏教婦人会大会」が富山教区担当にて開催され、「ようこそ、ようこそ」「縁をつなごう」の大会テーマのもと、富山・高岡・石川・福井・岐阜・東海各教区より八百名弱の仏教婦人会会員が参加した。

本大会にはご門主がご臨席され、開会式では各教区代表者による連盟旗の入場や音楽法要のお勤めなどの後、ご門主からのお言葉があり、参加者は真剣に聞き入っていた。

午前中には「念仏者の生き方を考えるく世界に広がるお念仏」をテーマに元カナダ開教区開教使の釋氏真澄さん（本願寺派布教使・京都教区）の基調講演があり、自身の病氣や家族の突然の死という体験から、念仏の教えを学ぼうとしたことがきっかけとなり、「私でも念仏の教えを伝えていくことができるのでは」という思いから開教使の道を選択したことを話された。そして

赴任先のカナダ開教区での経験を通じて、「海外の浄土真宗では、み教えのこころをもとに社会の諸問題に積極的に取り組み、実践していくことが非常に重視されていることを知り、目が開かれるような思いであった」という体験を話され、「教えと共に生きていく」ということは、それは社会の諸問題に目を向け、教えに基づく実践を生活の中心に据えていくことであると提言された。

午後からは「3.11 東日本大



震災 石巻市立大川小学校児童遺族くあの日からを語る」と題し、自身もお子さんを亡くされた紫桃隆洋さん（小さな命の意味を考える会 伝承の会語り部）による記念講演があり、「あの日は、地震が発生してから津波が到達するまでに五十分以上の時間がありました。逃げる時間は十分にあつたし、大津波警報が出ていたことも伝わっていた。助かるための手段も全員わかっていた。子どもたちは『ここにいたら死ぬ、山さ逃げっぺ!』と涙ながらに口々に訴えていたのに、なぜ五十分間も校庭にとどまっていたのか、なぜ山ではなく、危険な川沿いの避難地点を目指して移動したのか」と話され、時間が経過した今でも十分な原因究明はなされず、疑問は消えないとし、その背景には人命よりも組織としての体面や保身を優先する体質があるとし、それは石巻だけの問題ではなく、日本社会全体に巣食う病巣であると指摘された。その上で、同じ悲劇を繰り返さないために、大川小学校跡地で震災の体験を語り継ぐ語り部として活動されているということであった。

閉会式終了後は、全員で「今日の日はさようなら」を合唱し、二年後の石川大会での再会を誓い、閉会した。

◇第8回第2連区（中部・北陸）仏教壮年高岡大会

来る七月七日（土）午後一時（十二時受付開始）より、前門さまご臨席のもと、第8回第2連区（中部・北陸）仏教壮年高岡大会を富山県高岡文化ホール（大ホール）にて開催いたします。仏社会員でない方もご参加ください。記念講演は、NPO法人京都自死・自殺相談センター所長の竹本了悟さん、アトラクションは、平高校の生徒さんによる五箇山民謡を予定。（詳細は別紙チラシ）

参加については、事前に入場整理券が必要です。各単位仏壮または高岡教区仏教壮年会連盟事務局（高岡教区教務所）にお問い合わせください。

◆第二連区門徒推進員実践運動研修会開催

去る五月二十五日・二十六日にかけて、雨晴温泉磯はなび（高岡市太田）を会場に、「第二連区門徒推進員実践運動研修会」が開催され、第二連区（富山・高岡・石川・福井・岐阜・東海の六教区）の門徒推進員九十六名が参加し、学びを深めた。

高岡教区が主催となつて行われた本会は、「ともにいのちかがやく世界を目指すとは？」をテーマに、見失われつつあると指摘される「いのちの大切さ」ということを私たち自身はどのように受け止め、理解しているのかを問うことをねらいとして企画されたもの。

講師の林史樹さん（連研中央講師・教区委員会副委員長）は講義の中で、教団が親鸞聖人の教えに生きる同朋教団を名乗りつつも、戦争に協力し、被差別部落出身の門信徒や寺院に五割増の冥加金を科すなど、教団を維持する制度として差別を利用していったという歴史的事実を挙げ、「ともにいのちかがやく世界へ」という基幹運動のスローガンは差別への加担や戦争協力など、今まではそうではない教団であつた、という現状認識から出発したことを明らかにし、門徒推進員とは、体制や寺院の護持が目的ではなく、そのような教団の体質を改め、互いを尊重しあえる真の同朋教団を目指す推進員となることを期待して養成されたものであつたとお話しされた。

続いての油石泰憲さん（若神組門徒推進員）による問題提起では、『相模原障がい者施設殺傷事件』や優生保護法による強制不妊などの問題は、いのちそのものを役に立つか立たないか、といった利用価値で判断する社会的思想が背景にあり、真宗の教えをいただいているはずの私たちもその価値観の中にいるからこそ、そういった問題に無関心であつたり黙認してきたのではないかと、私たち自身が本当に『いのちの大切さ』ということを理解し、伝えてきたのだろうか、むしろそうではなかったのでは、と問題提起された。それを受けて分散会が行われ、各班ごとに熱心な話し合いがもたれた。

一日目の日程終了後は懇親会があり、余興として氷見明和会の皆さんによるおわら踊りの出し物があり、おわらの中でも念仏踊りを中心に演舞され、参加者は皆、哀愁漂うおわらの歌声と演奏に聞き入っていた。

二日目の全体会では前日の話し合いの報告があり、「強制不妊についての是非は議論が分かれるが、仏教は中道なのでどちらにも偏らないためにいいか悪いかの結論を出さない」「強制不妊は当時は認められていたし、別にいいのでは」という意見がある一方、「講義で教団がそこまで差別や

戦争にどのような関わっていたかの具体的な話を初めて聞いてその内容に驚いた」「戦争は人間の尊厳を無視する最たるもの。その時の『多数の利益のために少数は犠牲になつても構わない』という考え方は現在も大きな影響を与えているのでは」「仏教教団は本来は専門家のはずなのに、儀礼ばかりでいのちの尊重ということへの取り組みや意識が希薄化している」等の報告があつた。

全体協議では「差別はいけないというのとはわかるが、実際には寺院・僧侶の間でも今でも部落差別意識が存在するのでは？」という疑問や、「いのちの大切さとは単なる生き死にの問題ではなく、互いの存在にどう向き合っていくのか、ということではないか、そのことを踏まえないと本質を見誤るし、伝えていくこともできないのでは」「葬儀の場の悲しみに僧侶は本当に向き合っていますか？」という投げかけもあつた。

また、社会の中に相互不信が蔓延しており、社会を騒がす様々な事件は個人の問題ではなく、社会の抱える問題が個別の事件として発生していることを指摘する声もあつた。

講師助言では、いのちを大切にということはいくら言ったところでその中身や自身の現実が伴ってなければ空虚であるとし、「道に迷うのは①目的地がわからない②自分がどこにいるかわからない、の二つの要素があります。目指す目的地が『ともにいのちかがやく世界』というのはハッキリしている。では自分の周囲はどうなのか、自分自身の現状はどうなのかを認識していく必要があります」「障がいの有無や能力によって、我が子すらも『できる・できない』、『役に立つ・立たない』で見えてしまう自分の中にもある優生思想にどう向き合うのか、門徒推進員とは自覚や資格などではなくその生き方なのです」と語られ、参加した門徒推進員は熱心に講師の話に聞き入っていた。

西本願寺高岡会館

永代経法要のご案内

下記の通り高岡会館の永代経を勤めます。お誘いあわせてお参りください。

日時：7月20日（金）

日中—午前10時

逮夜—午後1時半

法話：高岡教区布教団布教大会

日中； 福田慶隆氏
（五位組廣濟寺）

伏間彰彦氏
（射水組妙万寺）

逮夜； 養宇 理氏
（糸岡組光顔寺）

杉谷淳志氏
（川上組瑞泉寺）

※お昼にお斎（お弁当）を準備しております。午前・午後あわせてお参りください。

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

『御同朋の社会をめざす運動』教区委員会委員研修会」報告

去る五月三十日・三十一日の両日、雨晴温泉磯はなびにおいて「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会委員研修会が開催されました。

一日目は「今の日本社会とこれからの宗教の役割」をテーマに研修があり、講師の藤野豊さん（敬和学園大学教授）より、今の日本社会にはびこる問題として、強者の主張や都合がまかり通り、国民の側も「強い」側に味方し、末端の弱者を虐げる側に立とうとする『強さの脅威』を挙げ、その最たる例が、社会的弱者や在日コリアンに対するヘイトスピーチ等であると指摘されました。また、障がい者に対する強制不妊手術を正当化する根拠となった悪法「優生保護法」は戦後に成立し、一九九六年になってようやく廃止されるまで、ごく一部の人たちを除いて誰も問題視してこなかったことは、「少数の者は社会のために犠牲になっても仕方ない」という論理が国民に浸透しており、「障がい者は子どもを産まないほうが良い」という思考が一般的であったがゆえに、近年になるまでその法律が存続でき、問題化もされなかったことを指摘され、その上で、「仏教をはじめとする宗教者の役割とは社会的弱者と共に歩む代弁者であったはず」と提起されました。

全体会では「障がいがかかっているのに産むのは本人の意思を尊重することが何よりだが、本当にそれがいいかは難しい」という意見が出る一方で、「無意識のうちに強いほうに味方することで自分を守ろうとし、強者の主張を正当化し、弱者の訴えを悪として排除していく方向に社会全体が流されつつある」という指摘、「そのような同調圧力に対し『おかしいのでは?』という提起や視点を与えるのが宗教では?」「布教の現場では社会的弱者や問題に目を向けた法話は求められず、求められるのは人を集められる面白おかしい法話であり、私たちのお寺や教団がそういう姿勢になっっていない現状がある」といった意見が印象に残りました。

講師助言では「例えば少子化の問題は労働力の減少や経済力の問題と

して語られている。いのちはそんなことのためにあるのではない!いのちの価値を利用価値で判断している思考こそが優生思想の背景です」「憲法は人権の根拠、しかし、それが変えられようとしている。保証されるべき人権の根拠がなくなる。しかし、法的な根拠などなくとも、誰もが互いに尊重されるべき存在であるということを普遍的真理として訴えてきたのが宗教でした。今の時代だからこそ宗教の力が必要、まずは何より小さき弱者の声に耳を傾けることがすべての第一歩、そのことによつて今まで見えなかったものが見えてくる、受け止め方も違ってくるはずです」と、これからの宗教者の役割の重要性を訴えられました。

二日目は「新たな組活動について―その取り組みとねらい―」をテーマに新湊組主幹の吉井教潤さんと若神組門徒推進員の長久義樹さんのお二人から活動発表をいただきました。長久さんは「門徒推進員会の活動を通じて組の役職者や組内僧侶との交流と課題の共有化を図っているが、逆に言えば、そうでもない」と門徒と僧侶との連携を図る機会がない」と僧侶と門信徒との協力的体制の構築に腐心しながらも、門信徒側からの働きかけだけに終わってしまったという現状を報告されました。吉井さんは新湊組で今年から開催している仏教入門講座を取り上げ、入門講座の開催に至った過程と現状認識が何より大切であったと前置きされ、現状の寺院活動は全く教化活動となりえていない、現状のお寺の法座は何十年通い続けても浄土真宗とは何かがわからないシステムになっていると指摘。「真宗が盛んな地域であるはずなのに浄土真宗の教えを何も知らない門徒が圧倒的多数で、伝えてきたはずの教えが実際には空洞化している」との証明ではないか」と述べられました。「かつて門信徒にお寺に何を望むかというアンケートを取ったところ、一位が『わかりやすく教えを伝えるお寺であってほしい』二位が『人々の苦悩に応えるお寺であってほしい』というものでした。現在の寺院がそうではない現状だからこそその回答ではないでしょうか、教えに触れてみたいという要望はあるものの、現在の寺院はそういった人の要望を受け止め場になっっていない」と教団・寺院の抱える問題点を指摘されました。

【高岡教区教務所職員 岡西好持】

◇これからの日程（6/18～7/30）◇

6月	教区・財団行事	教化団体・組行事
18	減免審査会・常備会	
19	組長会	
20		ブロック講員研修打合せ
21	宗務懇話会（東海）	仏青総会
22		同朋委員会
		仏婦教材委員会
25		講社役員会
		仏婦・寺女合同執行部会
26	北陸藤の会総会 教学研究室例会	
27	財団評議員会	長寿苑ビハラー 仏壮理事会
28	聖典セミナー	仏婦広報委員会 ヤスクニ委員会
29	実践目標学習会	
30		まことの保育研修会 寺院仏壮結成のための研 修会（東海）
7月		
4		非戦平和学習会
5		高寿会総会 組主幹協議会
7		第2連区仏教壮年高岡大会
10	常任委員会	
11		教区総代会総会・研修会
13	中国旅行事前研修会・説明会	
14	常例法座	
19		寺女役員会
20	会館永代経	
21		仏壮育成研修会
22		仏婦連盟真宗入門講座
26	聖典セミナー	
30		児童念仏奉仕団

☆ご訂正について☆

先月号の教区報において、各教化団体の役員についてお知らせいたしましたが、仏教婦人会連盟書記の竹林順子さんの所属仏婦が間違っておりました。

訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

正しくは、「糸岡組若林仏教婦人会」です。

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎6/23（土）：白川 憲仁 氏

（本願寺派布教使・東京都正法寺副住職）

「フツダ de 大喜利」

□6/24（日）：嵩尾 憲昭 氏

（高岡教区氷見西組専徳寺）

◎6/30（土）：季平 博昭 氏

（本願寺派布教使・広島県法光寺住職）

「めくもりに支えられて」

◎7/7（土）：季平 博昭 氏

（本願寺派布教使・広島県法光寺住職）

「足りないものはなに？」

□7/8（日）：未 定

（富山教区）

◎7/14（土）：季平 博昭 氏

（本願寺派布教使・広島県法光寺住職）

「心の居場所」

◎7/21（土）：季平 博昭 氏

（本願寺派布教使・広島県法光寺住職）

「音楽に触れる楽しさ」

【西本願寺高岡会館7月の常例法座】

ご講師： 味府 浩子 氏

（大阪教区）

ご講題：『極重悪人唯称名』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。